

村井芝齋 （註） 小説家。文久二年十一月十八日（河内生肌、昭和）一年七月二十日歿（八十二一九七）。本名寛 （幼名）。別號北神鶴客、芝齋居士、芝齋生、村井樂水散史、桑弧散士、樂水、乾坤堂樂水、筆廬舎奈麻利等。明治十二年東京外國語學校中退、十七年アメリカに渡り、歸國後東京專門學校、小澤。二十二年報知社入社、二十八年編輯長。二十九
年雜誌「婦人世界」編輯顧問。

著書、（得田）「二卿と家」「内地雜居論」（本名、附論・肥塚 龍枝止、岡村梅太郎筆誌）大橋安治郎編

明治十九年十一月叢々堂）、（第）「内外百事便覽」（同、編、明治二十四

年二月十一日報知社）、（大）「福帳」（筆廬舎奈麻利著、村井 芝齋開名、明治二十四

年四月二十四日自刊、報知社）、（衣）

芝城（芝齋居士名、明治二十八年

四月十二日春陽堂）、（寫）「寫真術」（同、

明治二十八年七月五日春陽堂）、（響）

の響（兜）（明治二十八年九月七

日春陽堂）、（朝）「朝日櫻・下巻」（芝齋居士名、明治二十八年十一月一

十二日春陽堂）、（鷲）「鷲の羽風」（明治二十九年十一月十二日春陽堂）、

「江の小島」（芝齋居士名、明治二十九年十一月二十一日春陽堂）、

「小猫」（明治三十年一月二十二日

春陽堂）、（白）「白の出島」全十二冊

（蓬萊の巻・明治三十年五月八日、

鶴龜の巻・八月八日、高砂の巻・十

月二十六日、住の江の巻・二十一年

一月一日、富士の巻・七月九日、新高の巻・十月十六日、老松の巻・



- 二十一年七月二十一日、白鷺の巻・二十二年一月一日、東雲の巻・六月六日、曙の巻上巻・二十四年十月十六日、曙の巻下巻・二十五年八月二十一日、朝日の巻下巻・十月四日、春陽堂。合本一全三冊、上巻・四十一年六月四日、中巻・九月十日、下巻・四十三年四月十五日春陽堂）、『雨美人』(明治二十年六月十八日春陽堂)、『芙蓉峰』(明治二十年八月二十一日春陽堂)、『深山の美人』(明治二十年十一月二十二日春陽堂)、『風船縁』(明治二十一年一月一日春陽堂)、『川崎大尉』(明治二十一年一月一日春陽堂)、『町醫者』(明治二十一年九月十九日春陽堂)、『桑の弓』(芝齋居士名、明治二十一年九月十九日春陽堂)、^{繪入}『通俗西郷隆盛一代記・第四編』(編良行亭共編、明治二十二年一月十四日報知社)、『松が浦島』(明治二十二年六月十一日春陽堂)、『鎧一筋』(明治二十二年十月十一日春陽堂)、^{傳書鳩}『堂』(明治二十二年十一月八日春陽堂)、『青すたれ』(合著、明治二十四年一月二十九日春陽堂)、『大福帳』(明治二十四年五月二十五日春陽堂)、^{釣道楽}『後編』(芝齋居士名、明治二十五年六月四日春陽堂)、『THE SAGE OF ONI, A Memoir of Nakae Tōju (Murai Gensai's "Oni Seijin")』(高柳^{龍吉}訂正、明治二十五年九月五日英學新報社)、^{酒道楽}『全二冊(上巻・明治二十六年二月十八日、下巻・五月八日博文館)、^{女道楽}』(明治二十六年七月二十五日博文館)、^{註釋}『^{繪補}食道楽・秋の巻』(明治二十六年十一月十八日報知社出版部)、『HANA, A DAUGHTER OF JAPAN』(GENSAI MURAI 名、明治二十七年十月十五日刊)、^脚『阿古屋及食道楽』(明治

- (二十八年一月十日台自刊、報知社出版部)、^{『實地』}『經驗臺所重寶記』(明治二十八年七月十日神奈川・自刊、報知社出版部、新橋堂書房發賣)、
 『文庫』(明治二十九年二月二十日春陽堂)、^{『英』}『譯記』又大盡(三二一-
 UN DAIZIN, OR FROM SHARK-BOY TO MERCHANT PRINCE)』(TRANSLATED
 BY MASAO YOSHIDA、明治二十九年五月十日有樂社)、^{『增』}『補婦人の日常
 生活法』(明治四十年五月五日實業之日本社。附録・石塚月亭「婦人
 と寫眞」)、^{『婦人及』}『婦人及』(『男子の参考』(明治四十二年七月二十日實
 業之日本社)、^{『人情論』}『人情論』(明治四十五年四月八日實業之日本社)、
 『木曾の神祕境―附甲州身延山』(大正九年七月二十日八日實業之日本
 社)等。